

霧島市国際交流協会



イベントレポート Vol.38(令和4年度第1号)



アメリカ 国際交流員

ショウ ウェイリー



さんが着任しました！

4月21日、新しいアメリカ国際交流員のショウ・ウェイリーさんが霧島市に到着しました。2020年にカリフォルニア州の大学を卒業し、国際交流員に応募したショウさん。コロナ禍で出発が延びましたが、やっと着任することができました！

ショウさんは中国にもルーツがあり、アメリカ・中国どちらの国の言語・文化にも精通しています。国際交流員の講座も6月より始まり、協会のイベントにも参加してもらう予定です。どうぞお楽しみに！



令和4年度 霧島市国際交流協会総会 開催

4月15日、国分公民館3階大研修室にて、令和4年度霧島市国際交流協会総会を新型コロナウイルス感染症対策を講じ、開催しました。当日は出席39名、委任状90名、計126名で、4月16日時点の国際交流協会会員数247名の過半数に達し、総会が成立することができました。会員の皆様のご協力に感謝いたします。

会議では、会長と霧島副市長の挨拶の後、総会資料をもとに議事を進行し、皆様のご協力ですmoothに総会を終えることができました。新型コロナウイルスの影響により、昨年度は当協会の活動も非常に制限を受けましたが、コロナ対策を適切に講じたうえで、イベントの開催などを通じて国際交流の推進を図ってまいります。

また、総会終了後に、長年マレーシアのコーディネーターとして、青少年のマレーシア交流にご尽力をいただいた三島先生が退任されるに伴い、感謝状と記念品の贈呈を行いました。併せて、後任のコーディネーターの甲斐先生の紹介を行いました。

なお、三島先生より退任に際していただいた手記を次ページで紹介していますので、ご覧ください。





縁あって霧島市国際交流事業に関わらせてもらい、コロナ禍の2年を含めると約十五年のお付き合いということになる。その年の派遣生の感想なり、印象深い出来事については協会の方でまとめておられ、私の感想もそれぞれの年に残している。

二十一世紀はアジアの時代と言われる。現在、鹿児島―インチョン―クアラルンプールという韓国便を使っている。霧島市としては国際線の利用は歓迎するところである。近い将来アジア各地からの直行便が鹿児島に再び就航するだろうとの情報を得た。国際観光地としての霧島市にとっても朗報であろう。

マレーシア空港到着後、クアラルンプール市内のホテルまで約1時間弱かかる。その道中、生徒たちはバスの冷房の強さに驚き、道路周辺の灯に興味が向く。派遣前の事前学習でこの国では涼しさと明るさが歓迎の心を現わすことを学んでいるからである。



マレーシア研修



鹿児島純心女子短期大学元名誉教授

三島 盛武

着いた翌日は独立記念碑やシャー・ラムのブルーモスクなどを見学し、新都プトラジャヤを経て、交流校のあるマラッカに向かう。ハイウェイを用いてプトラジャヤから約2時間である。このハイウェイをそのまま約三〇〇キロ南下するとシンガポールへ着く。二〇〇八年に世界遺産に登録されたマラッカは古都の雰囲気を持っている上に、マラッカ市の人口が四五万人弱と落着いた街である。この街の商業地区の入り口にホームステイの相手校のセント・フランシス学院（SFI）がある。全生徒一〇〇〇名ほどの男子校である。



↑マレーシアの独立記念碑



↑セント・フランシス学院にて

派遣生は圧倒的に女子生徒が多いので男子校でのホームステイに最初は戸惑ったが、学校側が気を遣ってくれ姉妹のいる家を捜してくれた。当初はホストとゲストのマッチングに気を遣ったが、現在は派遣前にSNS等で連絡を取り合い、交流はスムーズに行われているようである。コロナ下ではオンラインでの交信が盛んに行われている。

マラッカ到着の翌日、ホームステイの感想を聞くと多くの子供たちは、食事は辛くても何とか食べられると言ってくれた。中にはインド料理、マレー料理、中華料理と続けて振る舞われ量の多さに驚いた生徒もいた。早速ドリアンに挑戦したりなど様々な体験を皆、楽しそうに話した。



↑ドリアンを試食する様子



↑マラッカ名物料理サテチヨロ

マラッカ名物料理サテチヨロのレストラン「キャピトル」に我々がSFIの先生方と食へに行くゲスト・ホストに鉢合わせということもあった。安くて、おいしい、このキャピトルは欧米のガイドブックにも掲載されるほどの有名店だが、新型コロナウイルス感染症拡大のために客足が減り、閉店になったとSFIの先生方から教えられた。元気のいいマスターと馴染みになった方は多いのではないだろうか。

マラッカには市中を流れるマラッカ川での「リバークルーズ」も観光の定番である。オランダ広場近くで客を待つ「トライショー（三輪車）」もマラッカ名物といってもよいだろう。ホームステイ最終日のお別れパーティーのあとはお礼の意味を込めてゲ

ストとホストを同乗させ、マラッカの夜の観光に行く。派遣生がこの日のために用意した浴衣が映えるひとときである。楽しい思い出になったことだろう。

最終日は朝SFIに集合し、クアラルンプールへの移動だが、もっとホームステイしたいという要望が多くなる。クアラルンプールではツインタワー（八八階建ての商業ビル）があり、ブランド店など入っているのだが、生徒たちはすぐ近くにあるセントラルマーケットで東南アジアの民芸品など楽しそうに買い込んでいた。

幸いにして大した事故もなく、無事に研修の成果があげられたことに感謝している。派遣生はマナーもよく引率も苦勞のない楽しいマレーシア研修だった。

長い間、ご理解とご支援をいただき有難うございました。



↑トライショーに乗る派遣生



→クアラルンプールの八八階建てのツインタワー

事務局より

三島先生には、長年に渡り、マレーシア派遣に当たり、事前の現地との調整、派遣前の学習会、10日間にわたる同行をいただくとともに、マレーシア学生の受入にもご尽力をいただきました。長い間ありがとうございました。

New

新コーディネーターのご紹介



甲斐 美佐江 先生

甲斐先生は霧島市在住で、現在小学校に勤務されています。平成13年度から15年度の3年間、マレーシアの首都クアラルンプールの日本人学校に勤務をされ、その後もコロナ禍前までは、長期の休みを利用してマレーシアを訪問されていたとのこと。

今後、マレーシアへの青少年海外派遣事業が再開された際は、コーディネーターとして同行していただく予定です。



↑平成27年霧島市民表彰受賞



↑マレーシア海外派遣前の事前研修ではマレーシアの文化等を紹介
←マレーシアセントフランシス学院生受入の様子。

韓国カルチャー体験

～韓国の伝統的な遊びを楽しもう！～

5月14日(土)、国分海浜公園にて「韓国カルチャー体験～韓国の伝統的な遊びを楽しもう！～」を開催しました。連日の雨で天気が心配されましたが、当日は気持ちの良い天気にも恵まれました！当イベントは韓国国際交流員の李さんと一緒に韓国の伝統的な遊びを通して、異文化に触れながら国際交流を図ることを目的に開催し、当日は日本人18名、外国人4名、事務局3名が参加しました。

韓国の伝統的な遊びの中からチェチギ、チェギチャギ、トゥホに取り組みました。1つ目のチェチギはチャという棒を打って点数を競う野球に似たスポーツで、チームに分かれ対戦を行い、棒が遠く飛んだ時や棒を上手くキャッチできた時は歓声があがり盛りあがりしました。2つ目のチェギチャギはチェギと呼ばれる羽根玉を落とさずに蹴り続ける日本の蹴鞠に似た遊びです。3つ目のトゥホは矢を投げて筒に入れる遊びです。チェギチャギとチェギは簡単そうに見えますが、やってみると意外と難しく、どうすれば上手にできるのか参加者同士話し合っていて交流していました。

また会場に記念撮影用の韓国の伝統衣装「ハンボク」や韓国国旗を用意したところ、多くの方が着用して楽しんでいました。

今回は韓国国際交流員の李さんだけでなく、アメリカ国際交流員やアメリカ・イギリス出身のALTも参加し、参加者同士で出身国や文化など会話を楽しむ姿が見られ、みなさん国際交流を楽しまれたようです。



コリアリティー

韓国情報誌

KOREALITYのご案内

韓国人JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）参加者の有志によって、韓国文化を紹介する情報誌が作成されました！霧島市CIR（国際交流員）の李重燁さんも参加しています。内容は全て日本語で韓国の文化・料理・時事など、バラエティーに富んだ内容が盛りだくさんです。ぜひご覧ください。



↑李 重燁さん
(イ ジュンヨプ)



スマートフォン
専用閲覧サイト
はコチラ

パソコン
で閲覧希望の
方はコチラ



お知らせ



青少年派遣事業につきまして、夏の派遣は中止することとなりました。

また例年9月に開催していた国際親善レガッタも新型コロナウイルス感染症の影響により今年度の開催を見送ることとなりました。代わりとなる国際交流イベントを現在準備中です。今年度も多くの会員の方にお会いできることを楽しみにしています！

